

令和6年度
新潟大学理学部第3年次編入学試験解答用紙
自然環境科学プログラム
フィールド科学人材育成プログラム

受験番号	
------	--

I

1	a	<p>0,1,2 がでる確率Pはそれぞれ$P(0) = \frac{20}{100}$, $P(1) = \frac{50}{100}$, $P(2) = \frac{30}{100}$である。</p> <p>よって期待値$E(x)$は, $E(x) = 0 \times 0.2 + 1 \times 0.5 + 2 \times 0.3 = 1.1$となる。</p> <p>分散$V(x)$は$V(x) = E(x^2) - E(x)^2$なので, $E(x^2) = 0^2 \times 0.2 + 1^2 \times 0.5 + 2^2 \times 0.3 = 1.7$より, $V(x) = E(x^2) - E(x)^2 = 1.7 - 1.1^2 = 0.49$となる。</p>
1	b	<p>r回目に出る数をX_rとすると, $X = \sum_{k=1}^n X_k$である。X_rの期待値$E(X_r)$は(1)と同様にrに依らず, $E(X_r) = 0 \times 0.2 + 1 \times 0.5 + 2 \times 0.3 = 1.1$となる。$E(X) = \sum_{k=1}^n E(X_k)$であるから, 期待値は$\sum_{k=1}^n E(X_k) = \sum_{k=1}^n 1.1 = 1.1n$となる。一方, 分散$V(X_r)$も(1)と同様に$V(X_r) = E(X_r^2) - E(X_r)^2 = 1.7 - 1.1^2 = 0.49$であるから, Xの分散$V(X) = \sum_{k=1}^n V(X_k) = \sum_{k=1}^n 0.49 = 0.49n$となる。</p>
2		<p>時刻tにおける物体の温度を$x(t)$とすると, ニュートンの冷却法則よりxの時間変化率: $\frac{dx}{dt}$が周囲との温度差: $x - 20$に比例するので, 比例定数をkとすると, $\frac{dx}{dt} = -k(x - 20)$が成り立つ。</p> <p>変数分離型の1階常微分方程式なので$\int \frac{dx}{x-20} = -k \int dt$, 積分を実行して, $\log(x - 20) = -kt + c'$。よって, $x(t) = Ce^{-kt} + 20$となる。与えられた条件から$C = 70$, $e^{-10k} = \frac{4}{7}$となる。</p> <p>よって, $x(30) = 70e^{-30k} + 20 = 70\left(\frac{4}{7}\right)^3 + 20 = 33 \text{ }^\circ\text{C}$</p>

令和6年度
新潟大学理学部第3年次編入学試験解答用紙
自然環境科学プログラム
フィールド科学人材育成プログラム

受験番号	
------	--

I

3	<p>行列を使って書き直すと、$\begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 5 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 \\ 1 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{1}$。</p> <p>$\begin{vmatrix} 3 & 1 \\ 5 & -2 \end{vmatrix} = -11 \neq 0$なので$\begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 5 & -2 \end{pmatrix}$の逆行列が存在し、$\frac{1}{11} \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 5 & -3 \end{pmatrix}$である。</p> <p>①式の両辺に逆行列を演算させると、$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = \frac{1}{11} \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 5 & -3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 5 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$。</p> <p>よって、$x_1 = 1, x_2 = 2$。</p>
4	<p>a $\vec{r} ^2 = \vec{r} \cdot \vec{r} = x^2 + y^2 + z^2$なので、$\vec{r} = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2} = r$。</p> <p>b $\begin{aligned} \nabla \frac{1}{ \vec{r} } &= \frac{\partial}{\partial x} \frac{1}{r} \vec{e}_x + \frac{\partial}{\partial y} \frac{1}{r} \vec{e}_y + \frac{\partial}{\partial z} \frac{1}{r} \vec{e}_z = \frac{\partial r}{\partial x} \frac{\partial}{\partial r} \frac{1}{r} \vec{e}_x + \frac{\partial r}{\partial y} \frac{\partial}{\partial r} \frac{1}{r} \vec{e}_y + \frac{\partial r}{\partial z} \frac{\partial}{\partial r} \frac{1}{r} \vec{e}_z \\ &= -\frac{1}{r^3} (x \vec{e}_x + y \vec{e}_y + z \vec{e}_z) = -\frac{\vec{r}}{r^3} \end{aligned}$</p> <p>c $\begin{aligned} \nabla \cdot \frac{\vec{r}}{ \vec{r} ^3} &= \frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{x}{r^3} \right) + \frac{\partial}{\partial y} \left(\frac{y}{r^3} \right) + \frac{\partial}{\partial z} \left(\frac{z}{r^3} \right) = \frac{1}{r^3} - \frac{3x^2}{r^5} + \frac{1}{r^3} - \frac{3y^2}{r^5} + \frac{1}{r^3} - \frac{3z^2}{r^5} \\ &= \frac{3}{r^3} - \frac{3}{r^5} (x^2 + y^2 + z^2) = 0 \end{aligned}$</p>

令和6年度
新潟大学理学部第3年次編入学試験解答用紙
自然環境科学プログラム
フィールド科学人材育成プログラム

受験番号	
------	--

II

1	a	窒	素	,	リ	ン	酸	,	カ	リ	ウ	ム	の	3	つ	の	
		栄	養	塩	の	う	ち	,	カ	リ	ウ	ム	は	海	水	中	30
		に	多	く	含	ま	れ	て	い	る	た	め	海	藻	が	カ	60
		リ	ウ	ム	不	足	に	な	る	こ	と	は	な	い	。	リ	90
		ン	酸	は	瀬	戸	内	海	で	は	色	落	ち	の	原	因	120
		で	は	な	く	,	窒	素	が	原	因	で	あ	る	と	さ	150
		れ	て	い	る	。	窒	素	の	な	か	で	も	溶	存	無	
		機	態	窒	素	が	重	要	で	あ	る	。					
	b	生	物	の	多	様	性	を	保	つ	た	め	に	,	改	正	
		瀬	戸	内	法	の	制	定	に	は	賛	成	だ	。	た	だ	30
		し	栄	養	塩	が	少	な	く	な	り	す	ぎ	た	こ	と	60
		だ	け	が	,	人	間	に	と	っ	て	食	料	源	と	な	90
		る	生	物	の	増	殖	に	影	響	を	与	え	て	い	る	120
		と	は	限	ら	な	い	の	で	,	注	意	深	く	経	過	150
		を	観	察	し	,	改	正	瀬	戸	内	法	の	制	定	の	
		結	果	悪	影	響	が	見	ら	れ	る	の	で	あ	れ	ば	
更	に	改	正	す	る	べ	き	だ	。								

令和6年度
新潟大学理学部第3年次編入学試験解答用紙
自然環境科学プログラム
フィールド科学人材育成プログラム

受験番号	
------	--

II

2	a	暗	期	に	入	っ	た	と	き	に	細	胞	数	は	増	加	30
		す	る	。	た	だ	し	,	暗	期	に	入	る	ま	で	に	
		明	期	に	さ	ら	さ	れ	た	時	間	が	あ	る	一	定	
		の	時	間	を	超	え	て	い	る	必	要	が	あ	る	。	
	b	明	期	と	暗	期	の	長	さ	を	変	え	て	も	,	常	30
		に	明	期	で	タ	ン	パ	ク	質	の	増	加	が	見	ら	
		れ	た	こ	と	か	ら	,	明	所	で	の	み	タ	ン	パ	
		ク	質	は	増	加	す	る	。	60							